

鎮静剤を使用しての内視鏡検査をご希望の方へ

【鎮静剤使用に伴う重篤な副作用リスクに関する注意事項】

鎮静剤を使用することで次のような症状が現れる可能性があります。

- 呼吸が浅くなる、または呼吸が停止し後遺症が残る、最悪の場合は死に至る危険があります。
(内視鏡検査による死亡事故は、鎮静剤によるものです。)
- 意識がなくなると、暴言や暴力的な行為(嫌がって首を激しく振る、手でカメラを抜こうとする、医療者を殴る、蹴るなど)が現れることがあります。
- 検査したことや、その後の記憶をなくすことがあります。
- 鎮静剤投与後、数時間は眠気・ふらつきが残る為、当日中の車・バイク・自転車等の運転はできません。

※詳細は別紙をご確認ください

以下の方は鎮静剤が使用できません

- ◆ 胃カメラを初めて受けられる方
- ◆ 過去に鎮静剤を使用し、検査ベッドからの転落やご自身、医療者が受傷するなどの行為が確認された方
- ◆ マニキュア・ジェルネイルをつけている方(爪の色で呼吸状態を観察している為)
- ◆ 歩行時、杖などの補助具を使用されている方
- ◆ 70歳以上の方
- ◆ 授乳中の方
- ◆ 以下の病気の方
風邪などの流行性疾患(治りかけも含む)、慢性呼吸器疾患、睡眠時無呼吸症候群、
閉塞隅角緑内障・重症筋無力症病・アルコール依存症・パーキンソン病など

上記の説明をご理解・ご承諾が得られない場合は、鎮静剤の使用をお断りします